

第3回 下新川海岸マスタープラン検討委員会 資料

議 事

- 2) 下新川海岸マスタープラン検討項目全体フロー
及び目次(案)

平成20年1月21日

黒部河川事務所

下新川海岸マスタープラン検討項目全体フロー

	項 目	細 目	具体的な検討内容	
第 1 回委員会 H18.6.8	1. マスタープランの位置付け	上位計画の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県海岸保全基本計画に基づき検討する。 ・土砂管理基本方針の検討区間は境川～片貝川の区間とする。 	
		委員会の検討内容	<ul style="list-style-type: none"> 下新川海岸の将来形の検討 土砂管理に関する基本方針の検討 蓄積された技術の情報伝承、発信手法の検討 	
	1. 下新川海岸の現状と課題	下新川海岸の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・地形、気候、人口、土地利用、産業、交通、災害の歴史、海岸事業の沿革
		防護面の現状と課題	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・下新川海岸の特性（扇状地の成り立ち、河口の固定、漂砂の動きの変化） ・各地の侵食、越波（打上高・地形変化解析図）、被災状況 ・これまでの下新川海岸における保全の取り組みについて
			課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化、沿岸漂砂の減少、事業費の減少により施設整備が進まないことを説明
		配慮すべき環境および海岸の利用状況		<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な自然など、環境面で配慮すべき事項 ・社会特性と海岸の利用、市町の計画等
	海岸情報の現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・CCTV、海象観測所、河川情報システムについて 	
第 2 回委員会 H19.3.8	1. 背後地からの情報	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸の利用実態 ・海岸に対する思いなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の海岸の利用実態、海岸に求めること、問題点、何が出来るかなどをアンケートにより調査 	
	1. 下新川海岸の将来形	海岸保全施設整備計画	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果などから考えられる海岸保全施設について 	
第 3 回委員会			<ul style="list-style-type: none"> ・各工区の施設配置計画 ・概ね30年間で整備する施設 	
	1. 土砂管理に関する基本方針	連続する沿岸漂砂の適正な管理手法	<ul style="list-style-type: none"> ・おおまかな下新川海岸全体の土砂収支図 	
第 4 回委員会	1. 関係者の役割分担	関係者の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸保全施設の整備計画を実施するにあたり、必要となる、国、地方自治体および住民の役割分担の提示 ・工区の移管について 	
	1. 蓄積された技術情報伝承、発信	手法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・当面は事務所ホームページで発信するが、電子ミュージアム等の発信手法も検討する。 	

下新川海岸マスタープラン目次（案）

みんなで考え、行動できるマスタープランの策定を目指して

目次（案）	委員からの意見の反映
1. 下新川海岸マスタープランの位置付け 1-1 上位計画との関係（策定の背景） 1-2 策定の目的、内容 1-3 検討区間 1-4 マスタープランの実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ● 「マスタープラン」とは、将来のビジョンを提示する大きな考え方を示すものである。 ● マスタープランにはやっぱり夢と希望がないと、マスタープランと言えない。 ● 「どんな海岸にしたいのか」がマスタープランに記載すべき内容として重要である。その実現のためのアクションプランをきちっと策定しておけばよい。 ● マスタープランに位置づける要点のひとつは、この地域は、他に比べてどういう特徴・価値があるのかということ。 ● 30年後にはこうなる、といった形（マスタープラン）について合意を図る必要がある。
2. 下新川海岸における侵食実態 2-1 下新川海岸の成り立ち 2-2 下新川海岸の特性 2-3 海岸侵食実態 2-4 海岸災害実態 2-5 海岸侵食要因 2-6 これまでの海岸侵食対策 2-7 下新川海岸の土砂収支	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初に多少対策をしても侵食していく海岸であることを地元の方々に知ってもらう必要がある。 ● 現在侵食が止まっているように見えるのは、国が海岸保全施設の整備を行ってきた結果である。
3. 下新川海岸の現状と課題 ・防護、利用、環境	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート結果の反映
4. 下新川海岸マスタープランの基本理念 4-1 土砂管理基本方針 4-2 施設整備基本方針 4-3 関係者の役割分担と連携 4-4 P D C A サイクル 4-5 地域住民への情報公開と合意形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 完全に侵食を防ぐことはできないが、今後とも対策は必要である。 ● 通常のやり方ですばらしい海岸にできるかということ、多分できない。最低限の侵食対策は国がずっとやってきたが、今後どんな海岸にしたいのかということをお皆さんの中から意見を出していただく。 ● マスタープランには国が、富山県あるいは地元自治体と協力して、どういうふうな事業実施していくかという方針を提言の形でまとめる。 ● 土砂を運んでもらって、運び賃のかわりに土砂の一部を砂利採取業者に渡すという、物々交換のような形で海岸保全をやっている所があるので参考にすべき。 ● 「下新川海岸という特別な地域において、多くの人たちがその特徴を理解しながら、それを共有して、この海を大切にすることあるいは利用することが自分たちにとって非常に価値があるんだ」ということがわかるような文言にしていけないといけない。

下新川海岸マスタープラン目次（案）

みんなで考え、行動できるマスタープランの策定を目指して

目次（案）	委員からの意見の反映
5. 下新川海岸の将来形（目指すべき姿） 5-1 施設整備計画 5-2 土砂管理の目標（目標とする下新川海岸の土砂移動・土砂収支）	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常に広い下新川海岸全体を対象として、限られた財源でこのマスタープランを達成するという制約条件がある。 ● 防護が必要な海岸と利用拠点としての海岸という双方についてターゲットを絞ることによって、よりよいマスタープランになる。 ● 子供が親子連れで遊べる等の拠点づくりも重要なことだと思う。 ● 構造物も、景観を重視したものがあってもいい。 ● 世代別の抽出、聞き取り調査・フォーカスグループ調査等を加える必要がある。 ● 現状での意見の集約というのはこれでいいが、これをベースにマスタープランに反映させるというのは、もう一段何か工夫が要る。
6. より良い下新川海岸を目指すための関係者の役割分担と施策 6-1 サンドバイパス、サンドリサイクル 6-2 工区の移管	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えばチップトイレのような環境整備に協力していただく、新しいシステムを提案する必要があるのではないか。（ゴミ対策） ● 県と沿岸の市町が国土交通省と一体となって概算要求を出していくというようなことは非常に魅力的なことではないか。
7. 蓄積された技術情報の伝承、発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本で唯一最初の侵食ミュージアムを提案したい。 ● 下新川海岸について知識を結集した学校の副読本をつくって、小学校高学年とか中学生に、この下新川海岸についてきちっと理解していただかなければいけない。
8. 下新川海岸マスタープランの留意事項 8-1 策定後のフォローアップ 8-2 マスタープランの見直し	